

# 子どもと教師が新聞を活用した教育活動の魅力と共に味わい、新聞を活用しながら自己を表現する心地よさを感じる子ども

指定校 1 年次 南箕輪村立南箕輪小学校 竹村 港

## (1) 本年度のN I E活動の概要

研究指定校 1 年目にあたり本年度 N I E 研究部会を立ち上げた。新聞を教育活動に取り入れることは、子どもたちと新たな学びを生み出すことができるのか、議論を重ね、検証授業を積み重ねて部会運営をしてきた。

本校には、全校研究テーマ「自分を表現したくなる子どもたち」が設定され、他グループもその具現に向けて各々がテーマをもち取り組んでいる。N I E 研究グループでもその具現に迫るための切り口として新聞を多面的且つ多角的に捉えていくことを確認し、「子どもと教師が新聞を活用した教育活動の魅力と共に味わい、新聞を活用した自己を表現する面白さ・心地よさを感じる子ども」を目標に据え、部会メンバーを中心にそれぞれの立場で様々な活動や授業を実践した。

2 年生では、担任が子ども新聞の記事を紹介し、時事的なニュースに触れながら子どもたち同士が感想を伝え合う活動を継続してきた。また、3 年生では、新聞を広げて既習の漢字やカタカナを見つける活動を通して、記事の内容や構造に着目してきた。4 年生では、新聞記事を教室内に掲示し、記事の内容に対する自分の考えを付箋に書いて貼り付ける活動を継続した。1 年生や特別支援学級では、新聞を切ったり丸めたりして、様々な造形作品をつくり上げた。

次年度は本年度の研究の成果に立ち、学年の系統性を教師側が意識して学習活動を展開することや、新聞を活用した学習活動が、どのような資質・能力の育成につながるのかをより明らかにして活動を始めることができるようにしたいと願っている。

## (2) 本年度のN I E活動を始める前の状況

### < 4 月時点の児童数・学級数 >

・全校児童数 7 4 6 名 ・ 3 1 学級 (内特別支援学級 8)

### < N I E 活動の研究学級の実態 >

研究学級：4 年 2 組 3 5 名

4 年 2 組担任は、南箕輪村がどうしてブラメシ (村内に生えているアカマツの間伐材を炭にして食材の一部にして作る炭料理) を売りだしているか、また炭にはどんな良さがあるのかを調べることで、4 年 2 組の子どもたちにふるさとの魅力を発見してほしいという願いをもった。また、子どもたちが「トレジャータイム (総合的な学習の時間)」の活動としてやってみたいことの中に「料理」や「物作り」などがあり、村が取り組んでいる活動とリンクして「炭」を中心材として学習を展開できると考え、トレジャータイムのテーマに据えた。

トレジャータイムの活動が進むにつれて、子どもたちは炭の魅力やブラメシの魅力に気づき始めた。しかし、子どもたちの家族や先生方と話していると、「飲食店に行ったときに、ブラメシを注文することは少ない」という声が多く聞こえてきた。そのことを子どもたちに伝えると、多くの人に炭の魅力を知ってもらい、ブラメシを多くの人に食べてもらいたいという願いが生まれた。

### < 先生方の新聞活用の状況 >

学級の時間などで記事の内容から感じたことや考えたことなどを子どもたち同士で伝え合い、時事的な話題にふれながら互いの関係性をよりよいものにする材料にしたり、新聞を図工的な視点で捉え、新

聞の扱いやすさに着目して各学年の発達段階に合わせてながら造形活動の材料にして学習活動を展開したりした。また、図書館の時間に司書の先生から子ども新聞の記事を紹介してもらい、世の中の動きに目と心を向けるきっかけになったり、社会見学のとまとめを制作する時の見本に新聞を活用したりしてきた。

### (3) N I E活動の狙い(育てたい力)

#### <児童に伸びてほしいこと・期待したいこと>

- ・自分の考えや思いを様々な言葉で表現できる。
- ・物事を多面的に捉えることができる。
- ・色々な方法で学習活動を構想できる。

#### <N I E活動を通して育てたい力>

- ・子どもと教師が新聞を活用した教育活動の魅力を共に味わい、新聞を活用しながら自己を表現する心地よさを感じる力。

### (4) 公開授業以外のN I Eの取り組みの状況

- ・担任が子ども新聞の記事を紹介し、時事的なニュースを紹介する。記事の内容に触れながら子どもたち同士が感想を伝え合う活動を続けた。
- ・新聞を広げて既習の漢字やカタカナを見つける活動を通して、記事の内容や構造に着目し新聞の仕組みについて学習した。
- ・新聞記事を教室内に掲示し、記事の内容に対する自分の考えを付箋に書いて貼り付ける活動を続けた。
- ・新聞を切ったり丸めたりして、様々な造形作品をつくり上げた。
- ・図書館の時間に司書の先生が子ども新聞の記事を紹介し、世の中の動きに目と心を向けるきっかけ作りに活用した。
- ・社会見学等のまとめを制作する時の見本に新聞を活用した。
- ・図書館とは別に、新聞にふれる機会をつくるために校内に新聞閲覧コーナーを設けた。

### (5) 公開授業などの活動内容

①日時：令和6年11月13日(水)3校時(11:00~11:45)

②場所：南箕輪小学校4年2組教室

③公開授業実施学級：4年2組

④教科：総合的な学習の時間

⑤単元名：全村民炭博士計画 ～知ってもらおう炭の魅力～

#### ⑥学習指導案

(ア)単元名：「全村民炭博士計画 ～知ってもらおう炭の魅力～」

(イ)主眼：炭の良さに触れ、地域の人や村を訪れる人たちにもっと炭について知ってもらうために活動してきた子どもたちが、「For You Sheet」や板書の「どこを見るか」を基に他のグループと意見を交換することで、自分たちが思い描いた新聞にすることができる。

#### (ウ)本時の位置

前時：作成した新聞をグループ内で読み、気づいたことを話し合っって新聞を改善した。

次時：友だちから出た意見を基に、さらに新聞を改善する

(エ) 展開

学習活動	予想される児童の反応	指導・支援, 評価	時
1. 教師が作った新聞の紹介を聞く。(全体)  2. 教師の新聞の改善点を考え発表する。(全体)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちがやった炭作りについて書いたんだな。</li> <li>・なんかたくさん写真が使われているな。</li> <li>・見出しはもう少し大きく書くといいと思うな。</li> <li>・主語がないから分かりにくい文章があるな。</li> <li>・文章の語尾が気になるな。</li> <li>・写真に説明が書いてあるのはいいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞の紹介の際に「For You Sheet」も一緒に示すことで、子どもたちが「誰に、何を伝えたくて」教師が新聞を作ったのか分かるようにする。</li> <li>・必要に応じて発表した子に、「〇〇さんならどう直しますか」と、全体の前で実際に改善してみるように促す。</li> <li>・これまでの学習をまとめた掲示物や「For You Sheet」を基に意見を言っている児童がいたら取り上げる。</li> <li>・学習活動 5 で行うことの参考になるように字の色を分けたり、付箋に見立てた画用紙を使ったりして板書する。</li> </ul>	2  3
学習問題：自分たちが思いえがいている新聞を作ろう			
3. アドバイスの仕方について確認する。(全体)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の好みだけで意見を言うとか確かに良くないな</li> <li>・友達の新聞のいいところも見つけてあげるとお互いに気持ちがいいな</li> <li>・「For You Sheet」を見ながら考えれば、何か意見が言えそうだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師がアドバイスの例をいくつか示し、そのアドバイスの仕方についてどう思うか尋ねる。</li> <li>・友と伝え合うと良い内容や新聞を読むときのポイントを板書することで、子どもたちが必要に応じてそれを確認しながら活動できるようにする。</li> </ul>	3
学習課題：「For You Sheet」や教室の掲示物を基にして考えよう。			
4. メモの取り方と交流の順番を確認する。(全体)  5. お互いの新聞を読み合っって意見を伝え合う。(グループ) ① 前半のグループがアドバイスをする。 ② 後半のグループがアドバイスをする。  6. どんな意見が出たか確認する。(全体)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じグループの人と一緒に、時計回りに回っていくんだな。</li> <li>・私は「B」だから次は今のCの場所に行くのか。</li> <li>・私は「A-1」だから、最初にアドバイスするグループだな。</li> <li>・私は「A-2」だから、アドバイスをもらうのは2回目か。</li> <li>・漢字にルビが振ってあって、これなら小さい子でも読むことができるな。</li> <li>・「炭の良さ」という見出しなのに、炭の良さがあまり伝わってこないな。</li> <li>・炭の作り方の説明は、もっと写真が貼ってあると分かりやすいんじゃないかな。</li> <li>・「〇〇さんが□□という意見をくれました」</li> <li>・今の発言、私たちの新聞にも当てはまるな。直した方がいいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちには授業が始まる前からグループごとに座っておくように伝え、グループ分けの紙も配布しておくことで、移動に時間がかからないようにする。</li> <li>・「Aの人、手挙げてみて」や「2つ書いてある人は、手挙げてみて」とグループや順番を確認することで、交流の場所や順番を明確にする。</li> <li>・子どもたちの様子を見て、活動に関して何か困っていることがあれば交流の合間に全体で確認してから活動を再開する。</li> <li>・工夫してアドバイスをしている子がいたら、その姿を取り上げ全体で共有する。</li> <li>・アドバイスする内容を考えるのが難しい子には、板書や掲示物を見るように伝えたり、「写真に関してはどう」、「語尾についてはどうか」など、注目する箇所を限定して一緒に読んだりする。</li> <li>・学習活動 5 で出た意見を全体で共有するように促し、他のグループで出た意見を自分たちにも当てはめて考え、さらに改善点を見つけたり、いろいろな人に読んでもらうことの良さを感じたりできるようにする。</li> </ul>	2  25  5

7. 本時の学習を振り返って、考えたことを発表する。(全体)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつの間にか読者のことを忘れて書いていたな。</li> <li>・直せるところを教えてもらったから、これでもっといい新聞ができそうだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「今日の授業を通して、思ったことや、新しく分かったことはありますか」と尋ね、授業の振り返りを発表するように促す。</li> </ul>	5
		評) 自分たちのグループが想定している読者により適した新聞にするための見通しや考えをもつことができているか、やり取りの内容や新聞へのメモから評価する。	

### ⑦児童の反応

#### (ア) 担任自作の問題点の多い新聞から新聞作りの視点を確認する

担任は、意図して問題点の多い新聞を作り子どもたちに配布した。配布すると「見出しが小さい。」「誤字がある。」「誰なのかわからない。」「写真があると伝わる。」など、たくさんのつぶやきが聞かれた。その内容は、既習事項である新聞製作の際に留意すべきポイントだった。読み手の視点に立ち新聞を作成する時に注意しなくてはならないポイントを、子どもたちは瞬時に捉えていた。

#### (イ) 資料の拡大提示がもたらす効果

問題点の多い担任自作の新聞を拡大し黒板に貼り付けた。問題点をよくするために子どもたちが発言する場面で、「先生、前に出て言ってもいいですか?」と、クラス全体に伝えたいという意欲が湧き上がる児童がいた。マジックで問題点を修正し、クラス全体に伝え終わると笑顔を浮かべながら席に戻る姿があった。全校研究テーマにもある「自分を表現したくなる」姿そのものであった。発言(発表)する面白さを子どもたちにも伝え味わった姿だと言える。

#### (ウ) 「新聞学習の積み上げ」と「子どもたちの願い」が織り成す推敲活動

子どもたちは、読み手に伝わる新聞にするために他のグループで作った新聞を読み合った。「見出しが本文と同じ大きさだから、見出しを大きくした方がいい。」「『炭』じゃなくて、習字で使う『墨』になっているから、直してね。」と、直接伝えたり付箋に書いたりしていた。

また、「この文章だと、炭の良さが伝わらないと思う。」「炭スライムの写真をもっと大きくした方がインパクトがあると思う。」と、自分たちが活動の中から思っていたり感じていたりする炭の魅力をより良く伝えたいという気持ちが、アドバイスの中にも表現されていた。

### (6) 1年間取り組んだ成果と課題

#### <成果>

#### (ア) 子どもの視野を広げ時事的な話題をもとに語り合う

教室内に新聞を置き興味関心が湧く写真や文章をもとにして、子どもたちが感じたことや考えたことを自然に伝え合ったり、教師が子ども新聞の記事を取り上げて話題を提供し、記事について考えたことや思ったことを自由に発言したりしていた。新聞そのものの潜在的にもつ価値は、世の中の出来事に目を向けながら、お互いの考えや思いを伝え合うことができるツールであることを、改めて知ることとなった。

#### (イ) 新聞にふれる・造形遊びに浸る

新聞を丸めたりつなげたりして様々な作品をつくり出すことに活用した。自分の思い通りにならなくても、何度も作り直せることや、色に左右されず形だけに着目して制作できること、また、たくさんの新聞を集めてダイナミックに造形活動が展開できることなど、子どもたちが自分を表現する教材として活用できることを再認識した。

### (ウ) 協力する力につなぐ

2～3人程度のグループで、新聞を広げて習った漢字やカタカナ等を探すゲームをした。制限時間を設けて、いくつ見つけることができるかを競い合うことで、チームの友だちに自然と声をかけ力を合わせて活動することにつながった。また、見つけた漢字が既習かどうかを国語の教科書で確かめる姿や、意味の分からない言葉を辞書で調べてクラスの友だちに伝える姿にもつながり、学習意欲を大幅に高める機会にもなった。

### (エ) 新聞の魅力に気づき自分たちの学習を発信したり、まとめたりする手立てに

4年2組では、「炭」を材にして総合的な学習の時間を展開した。学習が進む中で、自分たちの活動をもっと多くの方に知ってほしいという願いをもった子どもたちは、議論の末に数多くの情報発信ツールの中から「新聞」を選んだ。それは、「新聞」に関わる豊かな経験（これまでの教科学習や社会見学のみまとめ制作、信濃毎日新聞社の方の出前授業など）が基になって、「新聞」の魅力や有効性を感じ、自分たちにとって身近な存在として新聞を捉え始めているからだと考察できる。

また、出前授業で新聞の特性を学んだり、数社の新聞を読み比べたりすることで、自分たちの「炭」に関わる学習を発信する新聞作りのスキルアップにつながった。さらに、これまで学習してきた新聞作りのポイント（見出しの作り方や文字の大きさ、適切な語尾表現や効果的な図表・イラストの挿入方法など）を拠り所にし、自作した新聞をお互いに推敲し合うことで、自分たちの学習の足跡をふり返ることにつながり、総合的な学習の時間のビジョンも明確になった。

## <課題>

### ①新聞活用場面の見極め

次年度は本年度の研究の成果に立ち、学年の系統性を教師側が意識して学習活動を展開することや、新聞を活用した学習活動が、どのような資質・能力の育成につながるのかを明らかにして活動を始めることができるようにしたい。そのためには、新聞作りが目的になったり、学習を効果的に進める手立てになったりする学習場面を発達段階に応じて年度当初に確認し、子どもの意欲・意識が変化した時には、それに合わせて通年で活動できる展開を細かく立ててからの実践へ移していきたい。

### ②新聞のもつ価値を学習課程に取り入れる良さ・面白さの探究

近年、家庭でも新聞をとることが減り、「活字離れ」が叫ばれている。本校児童も例外でなく新聞に触れる・見る機会もない。

本年度N I E研究グループでは、実物の新聞を児童玄関大廊下に提示し、直接子どもの目にふれるようにしてきた。テレビ、ネットニュース、ラジオ、等々あらゆる情報が混在する中で、規模は小さいながらも新聞が社会で活用されているには、他メディアにはない新聞そのものに大きな価値があると考えられる。良さに継続的に触れながら、児童・職員とも「新聞の価値」をさらに追究していきたい。